

測定評価学		講義	非常勤講師 星野 亮磨
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目		科目ナンバリング 12361401

### 1. 授業のねらい・概要

本学において将来の職業世界への関心を高め、柔道整復師として働くことの意義を見出すことをねらいとする。  
また、本学を通して身体の解剖学的、生理学的特徴とその機能を把握し、施術の判断や評価、整復固定処置等を理解することで外傷の早期回復、QOLの向上及び再発予防へ導くことの大切さを学ぶ。

### 2. 授業の進め方

これまで培ってきた臨床上の理学所見の取り方、処置、再発予防について各部位ごとに講義する。

### 3. 授業計画

1. 鎖骨部の損傷	9. 上肢の損傷
2. 肩関節部の損傷	10. 体幹部の損傷
3. 上腕部の損傷	11. 大腿部の損傷
4. 肩部の軟部組織損傷	12. 膝関節部の損傷
5. 肘関節部の損傷	13. 下腿部の損傷
6. 手関節部の損傷	14. 足関節部の損傷
7. 手部の損傷	15. 体幹・下肢の損傷
8. 指部の損傷	

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各授業内容に必要な筋肉、関節の機能解剖や各部位の外傷について予習しておく。復習については前回の授業内容を配布プリントやノートを使って整理し疑問点を明確にしておく。この授業の予習に必要な時間は2時間以上を要する。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答などを説明する。

### 6. 授業における学修の到達目標

本授業で説明する外傷の臨床所見の取り方、処置、再発予防について理解できるようになる。

### 7. 成績評価の方法・基準

成績は、授業内で説明した内容を理解しているか評価する。損傷の判断や評価、整復固定処置や後療法などを理解しているか試験する。（学期末の試験80%、授業への貢献度・積極性など20%）

### 8. テキスト・参考文献

- ①柔道整復学・理論編 改訂7版社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ②柔道整復学・実技編 改訂2版社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ③必要に応じて資料を配布する。

### 9. 受講上の留意事項

私語および携帯電話の使用や、他の生徒の受講に迷惑をかけること。また、授業回数の3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、接骨院や整形外科における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。